

# 「バックカントリースキー」で 入山される皆様へ



毎年、全国で雪崩による生き埋めや吹雪など天候悪化による遭難が相次いで発生しています。

「バックカントリー」とは管理されていない山のことを言います。そのため、バックカントリースキーでは、人工的に整備されたスキー場ではなく自然そのままの雪山を滑ることが可能なので、良質な雪質の斜面を、周りに誰もいない状態で思う存分楽しむことができます。

**しかし、整備管理されたスキー場と異なり、非常に危険ですので、皆様の自覚ある行動をお願いいたします。**

## バックカントリースキーに於ける様々な危険性

- ★スキー場エリア外で事故が発生した場合、場所の特定などに時間を要し捜索救助に時間がかかります。最悪の場合、連絡も出来ず、事故が発生したことに気付かれなければ、捜索救助ができません。
- ★冬山は天候が変わりやすく、吹雪はルートを見失い、容赦無く体温を奪います。降雪や吹雪などにより「ホワイトアウト」の状況に陥る場合もあります。
- ★疲れたからといっても、そこにレストハウスはありません。食料も自分で担がなければなりません。
- ★スキー場エリア外では、思わぬ所に危険が潜んでいます。
  - ・ 雪庇(せっぴ)に乗ったため、雪庇が崩落し雪崩が発生する危険性
  - ・ 硬いバーンに新雪が乗った状態をスキーやスノーボードで滑ったことにより雪崩が発生する危険性
  - ・ 積雪に隠れた木の枝などに足を取られる危険性
  - ・ 立ち木に衝突する危険性や沢の中に落ちる危険性
- ★両足が固定されたスノーボードでは、下半身が埋まっただけでも脱出は困難です。
- ★スキー場の山頂やコース脇の斜面を、パトロール管理区域外を越えて滑走すること、いわゆるサイドカントリーもバックカントリーの一種になります。

※これらは一例ですが、いずれも命に関わることを自覚してください。



## スキー場のエリア外は、自己責任が問われます

- ・ 遭難等に伴い捜索を行なった場合、捜索費用等を負担しなければならないこともあります。
- ・ 自分の技術・経験を過信していませんか？ ゲレンデとは別のスキルが必要です。

**誤った判断をしていませんか！ 一つ間違えば、命が亡くなります。**

- ・ スキー場のすぐ側だから大丈夫
- ・ 滑った跡があるから大丈夫
- ・ 上手な人と一緒だから大丈夫
- ・ この沢を降りれば多分スキー場だから大丈夫
- ・ ビーコンを持っているから大丈夫
- ・ 携帯電話があるから大丈夫